

おおさきの歴史を 旅してみませんか



国指定史跡：横瀬古墳

大崎町教育委員会

協力：歴史探学会おおさき



馬場下の水神

向かって右側の水神祠は享保5年(1720年)に加治木島津家家老藤久兵によって建てられたもの。左側の鬼面の石灯笼は、明和4年(1767年)一帯の開田の業績を後世に伝えるために寄進されたものである。



瀬戸間伏橋

瀬戸間伏川は菱田川の上流である。江戸時代、菱田川には2箇所の橋があって、その内の1箇所が瀬戸間伏の石橋であった。この時の石橋は明治時代の西南の役の時に官軍の進軍を阻止するため破壊された。現在残る石橋は大正10年に架けられたものである。



大崎町

移住の歴史と開拓の精神が息づく地域(野方荒佐野地区) P12 P13

学校と地域の連携で守り継がれる歴史と伝統芸能(中沖地区) P2 P3

失われた修験者たちの聖域(飯隈地区) P2 P3



コブシ

根元から約1mのところまで幹が3つに分かれる。大きな幹で幹周り160cmを測る。樹高は約15m、枝張り約16.5mである。3月中旬頃に開化する。平成21年3月に町天然記念物に指定された。

樹齢約400年。幹周り7.45m、枝張りが東西29.5m、南北29.5mを測る。地元では「なげどん」と言われている。平成4年に町天然記念物に指定された。



タブの木



大崎郷の最大の商業地として栄えた街(大崎上町地区) P9 P10
近世以降の行政の中心となった地域(馬場・城内) P8 P9
牟田地を埋め立てて発展した商業地(三文字地区) P6 P7

古代・中世の海上交流の拠点(横瀬・益丸地区) P4 P5

都城島津氏の持切在として栄えた町(菱田地区) P1

未知なる歴史が探求心をかき立てる地域(永吉地区) P14 P19



太平洋戦争における本土決戦に向けて設置されたコンクリート製の施設。主に志布志湾の監視を行っていた。

菱田の歴史は古く、奈良時代初期の『大隅風土記』の逸文にある「必至里」は菱田ではないかと救仁郷断二著『大崎町史』に記されています。また「春日神社」や「領家」の地名は荘園時代に藤原氏の所領であった名残で、「上住」「下住」は律令時代の条里制の名残とも記されています。江戸時代は海上交易の要所として都城島津氏の持切在（直轄地）になりました。近代以降も都城との深いつながりのある場所です。



8 春日神社

平安末期、救仁郷は島津荘の一円荘であり、藤原家氏の所領であった。春日神社は、藤原氏の氏神である。



9 押切の水神

寛文年間に菱田川で舟渡しが行われ始めた頃、水難治水の守護神として祀られたと考えられる。



3 火の神

菱田の町では、明治43年、大正12年、大正15年に火災が発生しており、火災が起きぬよう火ふせを祈願して「火の神祭り」を行っている。右祠は明治41年に建立されたもの。



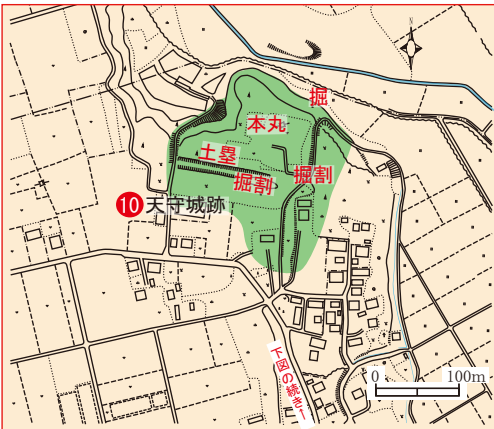
2 南方神社（諏訪神社）

祭神はタケミナカタノミコトとヤサカトメノミコト。元和2年（1616年）に都城島津家12代忠能が再建した。創建は不明。



1 一里塚

菱田小学校敷地内にある。国道建設により移設されているが、古江港まで8里、大崎まで29町、志布志へ2里とある。



10 天守城跡

像の彫刻は無いが、右側は古くから田の神とて祀られている。



7 地蔵寺の水神と田の神

10 天守城跡

南北朝時代に南朝方の楡井頼仲・頼重兄弟が拠った山城。現在も土塁・掘割が残っている。



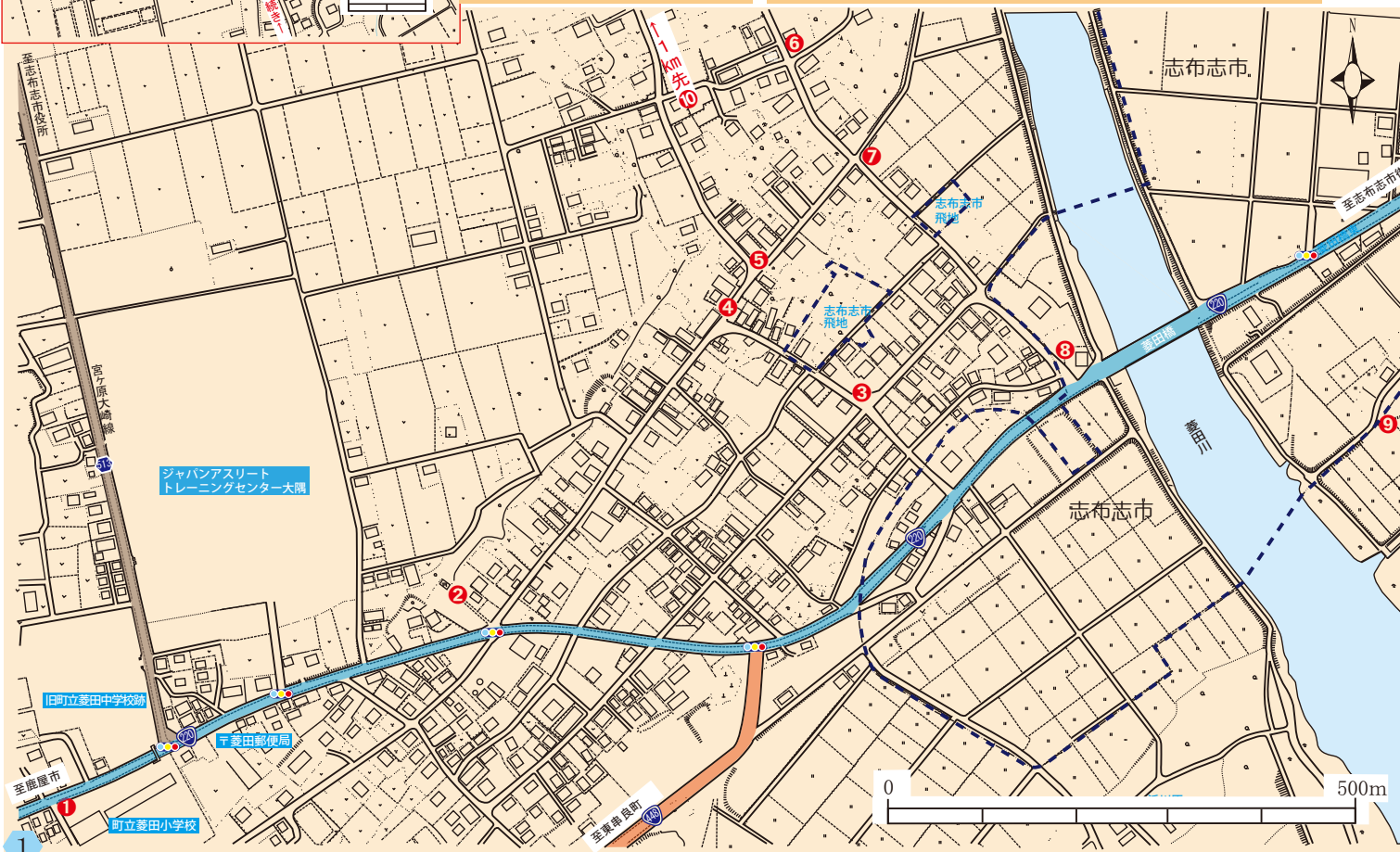
6 菱田原開墾創立の碑

坂元氏宅地内にある。明治28年～31年の菱田原（飯隈台地東部河成段丘部）の開墾に尽力した坂元祐重によって明治36年に建立。



4 玉宝山正明寺跡

福昌寺37代の覚海円大による開山と江戸時代の古文書「大崎名勝誌」に記されている。慶長5年（1600年）北郷忠能に都城が与えられた時期に開山されたのではないかと推測される。福昌寺の末寺で曹洞禅宗。



0 500m

『大崎名勝誌』には、和銅元年（708年）に修験道開祖 役小角の弟子である義覚がこの地にやってきて、飯隈山を開山し、新熊野三社権現を勧請し、本地阿弥・薬師・観音の三尊を安置したことが由来と記されています。また、天平15年（743年）に聖武天皇の勅願所の宣旨を受け、神領の地一千石を支給されたとも伝えられています。中世以降も本山派修験の京都天台宗聖護院の末寺として、聖護院や近衛家などの中央勢力や、島津各代の藩主と深く関わり南九州最大の修験道場として君臨しました。

しかし廃仏毀釈で飯隈山の寺院は破壊し尽くされ、長く続いた聖域は完全に失われてしまいました。



5 飯福寺別当本坊の墓所

延文4年（1359年）に島津氏に敗れた蓬原城主 救仁郷頼世の弟 朝元が出家して36代目の別当職となった。以後別当職は代々救仁郷氏に受け継がれることとなる。



10 正観音像と如意輪観音像

昭和54年に畑から発見された正観音像と如意輪観音像が安置されている。



11 救仁郷朝次の墓

第19代島津光久の小姓として使っており、薩摩藩の用水路の開発や干拓事業に携わっていた。三文字の湿地帯に大量の木を浮かせて基礎を造り、地頭仮屋から永吉台地に渡る最短の道（木入道）を完成させた人物である。



1 若一神社

永禄13年（1570年）に建立。祭神は切目王子。大崎郷の三の宮で、本殿に丸に十字の字の文様があることから、島津氏との関わりも想定される。



2 飯福寺の石塔群

長年野積されていたものを昭和58年に調査を行い、宝塔21基、方篋印塔9基、五輪塔53基、残欠相輪48基、空風輪130基、板費3基が確認された。一部を復元し、昭和59年に町指定となる。



4 飯福寺照信院本社跡

飯福寺照信院本社があったとされる場所には、現在「熊野神社」として社が建てられている。



（飯隈山飯福寺）
新熊野権現社
照信院

6 飯隈古墳6号・7号墳

山頂に2基の円墳が存在。

8 鷲塚山

妖怪が村人を悩ます事が多く、鎌倉時代に飯福寺の中興である覚進が天竺の靈鷲山の三世一体蔵権現を勧請し、悪魔納受の秘法を修め、妖怪を封印したと言われている。

山頂には3基の古墳（5号・8号・9号）が確認されている。また町教育委員会が平成22～23年に行った発掘調査で地下式横穴墓が山腹に多く点在していることが明らかになった。

7 義覚上人の塔

飯隈山を開山した義覚の墓と伝えられている。義覚は天平20年（748年）に亡くなった。五輪塔は後世に建てられたものと推測される。

地元では「いぼ」に良く効く神様として、「いぼぼとけ」と呼んでいる。昭和51年に町指定となる。



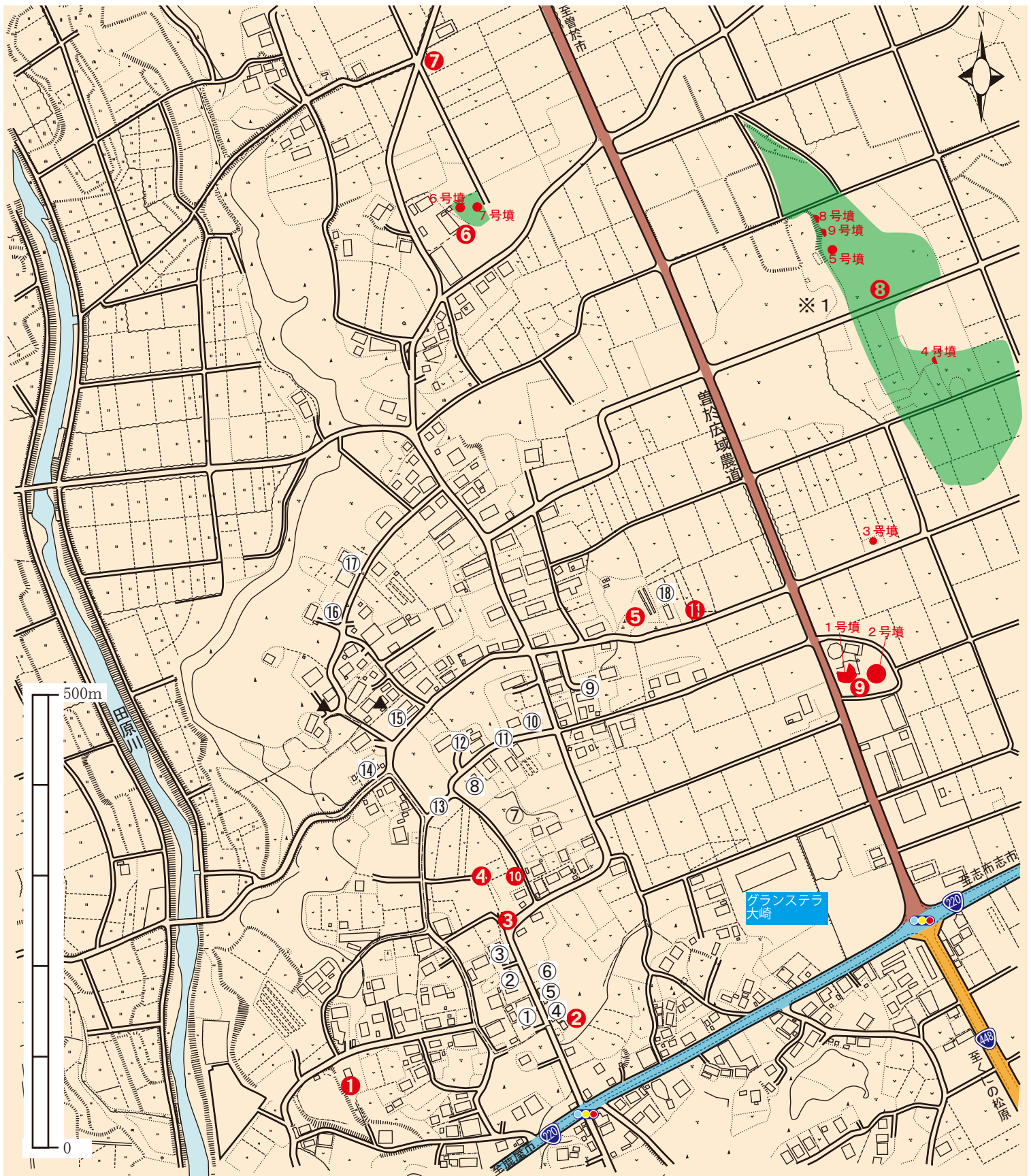
3 仁王像

飯福寺照信院の門前にあったが、明治初期の廃仏毀釈で破壊された。地元の人々によって復元されたが、阿像の首は発見されていない。鎌倉時代の作と推測される。また、運慶作とされ完備していれば国宝級の仏像といわれている。

昭和51年に町指定化。



鷲塚山山頂にある5号墳



飯隈寺 28ヶ坊所在地（跡地）星印は救仁郷を名のる。

- | | | |
|--------|------------|-------|
| ☆① 門也坊 | ☆⑭ 橋元坊 | |
| ☆② 池之坊 | ☆⑮ 十宝坊 | |
| ③ 桐樹坊 | ⑯ 山本坊 | |
| ☆④ 禅盛坊 | ⑰ 松谷坊 | |
| ☆⑤ 榎木坊 | ⑱ 慶林坊 | |
| ⑥ 松尾坊 | 所在不明の坊 | |
| ☆⑦ 梅谷坊 | ⑲ 井上坊 | ㉔ 養伝坊 |
| ☆⑧ 杉谷坊 | ⑳ 分昌坊 | ㉕ 勝伝坊 |
| ⑨ 藤井坊 | ㉑ 宝玄坊 | ㉖ 甚鏡坊 |
| ☆⑩ 原之坊 | ㉒ 永学坊 | ㉗ 来仙坊 |
| ☆⑪ 桜井坊 | ㉓ 文堯坊 | ㉘ 円長坊 |
| ☆⑫ 中之坊 | ▲ 1 木尾善載坊跡 | |
| ☆⑬ 文殊坊 | ▲ 2 木尾伝昌院跡 | |

(※) 1, 昭和 30 年頃の畑の耕地整備工事時重機の陥没で遺跡が発見され 3 基の石棺が出土した為道路作成は中止となった場所。 3 基の内、1 基は大崎中央公民館に展示。 1 基は鹿児島大学。 1 基は宮崎県西都市に貸与してある。



⑨ 飯隈古墳 1号墳・2号墳

広域農道沿いに1号・2号が立地しており、道路側の1号は住宅敷地で一部損壊している。

海上交通が重要だった時代、志布志湾岸は広域交流の拠点として栄えていました。それを示すように古代の貴重な遺跡が志布志湾岸に多く点在します。

横瀬から益丸にわたる海岸地域もまた海への玄関口として繁栄していました。そして人々は海からの恵みに感謝し、そして時代の有力者たちはこの地域を重要視していたのです。



3 持留川旧河川跡

昭和初期の持留川の改修で現在の流路になっているが、これ以前の流路の名残を残す場所が残っている。



5 南方神社

祭神はタケミナカタノミコトとヤサカトメノミコト。島津氏関係の神社と推測される。

鳥居の両側に明治初期の廃仏毀釈で破壊された仁王像がある。神社の脇に日清・日露戦争に出征した32名の名前が刻まれた碑が建てられている。



2 子宝地蔵（左）・早馬（右）

子宝地蔵と言われているが、安産や子どもの成長を見守る観音菩薩「子安観音」である。

早馬は農耕牛馬の健康と安全を願って祀られた神。

昭和57年の持留川改修工事でともにこの場所に移された。



1 横瀬古墳

5世紀半ばに築造された大型前方後円墳。墳丘の長さは約140mに及ぶ。県内では東串良町の唐仁大塚古墳に次いで2番目の規模。昭和52・53年に鹿児島県教育委員会が行った発掘調査で周溝の存在が明らかとなり、平成22・23年に大崎町教育委員会が行った発掘調査で周溝の外側を廻る外溝が確認された。

明治35年に盗掘に遭い、石室内は朱塗で、直刀、甲冑、勾玉が出土した。昭和18年に国指定史跡となった。ヤマト政権と深いつながりを持っており、大陸～南西諸島～近畿地方を結ぶ広域交流の拠点を掌握していた西日本を代表する首長の墓と推測される。



4 後迫の田の神

稲の成長を見守り、豊作をもたらす農神。この田の神像は昭和10年12月の耕地整理記念碑建立とともに据えられたものである。

左手にすりこぎ、右手に杓子を持っているが、杓子が大変大きいのが特徴。



8 鰐口・阿弥陀如来像・六面地蔵

六面地蔵

阿弥陀如来像

阿弥陀如来像は寄木造りで、穂園家の氏神として祀られている。社に吊られている鰐口には、「大永二年（1522年）六月二十五日」の銘が刻まれている。ともに町指定有形文化財。六面地蔵は風化により細部が不明確である。



鰐口



7 石敢当

この地域では「せっかんとう」と呼ぶ。魔物の集まりやすい三叉路や曲り道などの突き当たりなどに建て、災いを防ぐという。中国から琉球を経て伝わったものである。



6 水神

「恵み」と「災い」をもたらす「水」に畏敬の念をこめて祀られた神。



9 薬丸弾正兼持の墓

肝付兼統の武将で龍相城主。弘治2年（1556年）の戦ヶ島の戦いにおいて大野出羽守との一騎打ちで戦死した。

戦ヶ島の戦いは、肝付町高山を拠点とする肝付氏と宮崎県串間および日南を拠点とする豊州島津氏との大隅半島勢力争いの中で起こった戦いである。この地域は海上交通の要所を担う重要な場所で、肝付氏にとっては勢力の維持・拡大を図るうえで死守しなければならない場所であった。

11 竜相城・旧大崎城

竜相城については築城時期は不明であるが、鎌倉時代と推定される。当初は台地南部分に本丸があったとされ、「井出田城」と呼ばれていた。その後台地東側に中心が移り、「竜相城」となる。南北朝時代は楡井氏の城となった。

文明6年（1474年）に高山の本家と断絶した肝付兼光が、竜相城本丸の北側に中心を置いて、「大崎城」を築城した。肝付兼光没後に子の兼固は現在の霧島市溝辺に領地を移し、変わって新納氏が城主となる。

その後、天文8年（1539年）に新納氏を攻め落とした高山城主 肝付兼統が治めた。



10 綿打川

田原川下流域を指す名称。『大崎名勝誌』では、天文23年（1554年）と弘治2年（1556年）に起こった「戦ヶ島の戦い」で戦死した兵士の亡骸が川を堰き止めたことから「腸打川」と言うようになったと記されている。

一方で「わたうち」を「綿津宇治」と解釈して海を司るワタツミ神との関連を指摘する説もある。



13 大隅大崎駅跡

昭和 10 年に串良～大崎～志布志間の古江線（昭和 47 年に「大隅線」に改称）が開通。昭和 62 年に国鉄民営化により全線廃止となる。



盾持人埴輪（鹿児島大学総合研究博物館所蔵）



10 号墳の埋葬施設内石棺

12 神領古墳群（神領 10 号墳）

田原川と持留川に挟まれた舌状台地上に 4 基の前方後円墳と 9 基の円墳が点在する。うち神領 10 号墳は平成 19～21 年度に鹿児島大学総合研究博物館によって発掘調査がなされ、墳長約 60 m 級の中級クラスの前方後円墳であることが分かった。

発掘調査では盾持人埴輪や、多量の初期須恵器、鉄製の武具が出土した。横瀬古墳と同時期の古墳で、横瀬古墳の被葬者と関連し、かつヤマト政権と深くつながっていた人物の墓と考えられている。5 世紀前半には、横瀬地域で一大勢力が形成されていたことを示す貴重な史跡である。

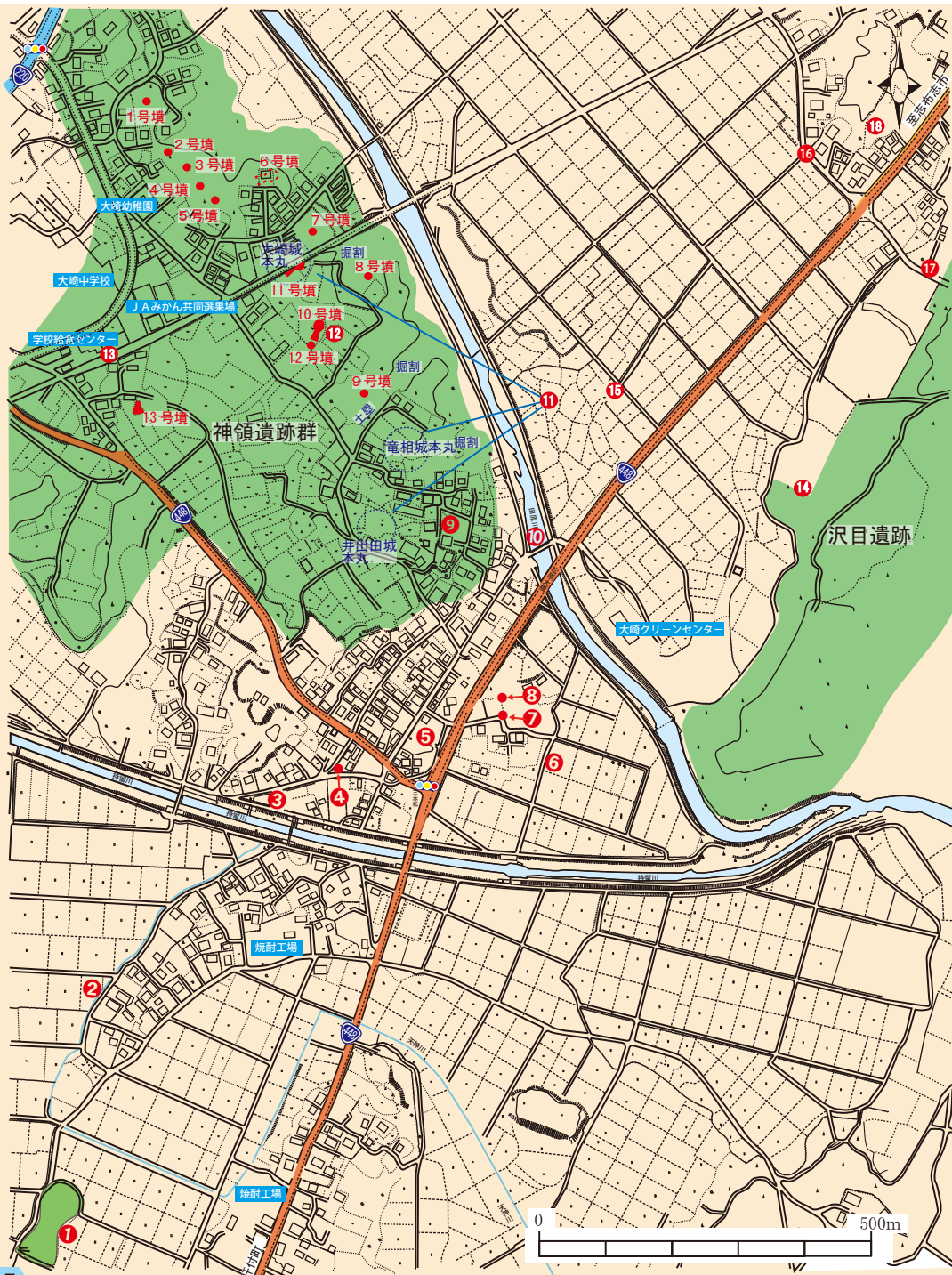
※写真提供：鹿児島大学総合研究博物館



14 沢目遺跡

砂丘に埋没した遺跡。砂採取作業中に発見された。平成 11 年に本格的な調査を行い、弥生時代前期（約 2300 年前）・中期（約 2000 年前）・終末期～古墳時代初頭（約 1700 年前）の遺物・遺構が発見された。

かなりの密度で住居が形成されており、また出土遺物から瀬戸内地域や東九州地域で見られるような土器が多く見受けられた。西日本における海上交流の一大拠点志布志湾岸に存在していたことを裏付ける貴重な遺跡である。



15 猪鹿倉丹後守忠兼の墓

戦ヶ島古戦場の激戦地に建っている武将の墓。戦でこの地で亡くなっている。百引城主で島津方の武将である。



16 椎ヶ島大明神

もともと猪鹿倉忠兼の墓付近にあった「椎ヶ島」という丘にあった。戦死者の霊を鎮めるために建立された。



17 六面地蔵

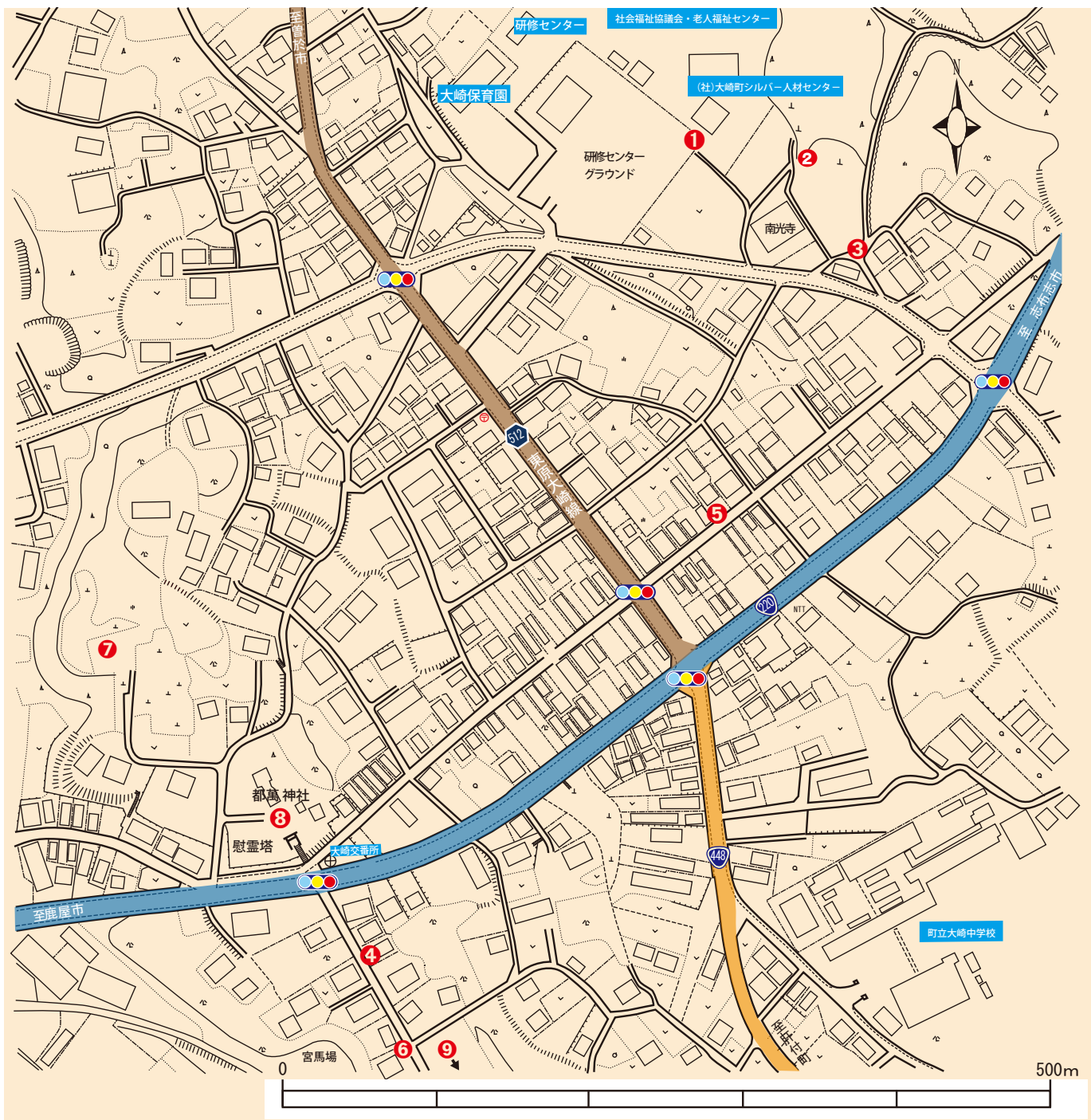
「椎ヶ島」の戦死者の霊を鎮めるために島津義弘が寄進したと伝えられる。



18 大野出羽守の墓

豊州島津方の武将。蓬原地頭であった。薬丸兼持との一騎打ちで深手を負った後、この場所で自刃した。

江戸時代、この地域は大崎郷の中でもっとも活気のある場所でした。日用雑貨などの必需品を買い、郷の必要な物資を調達する「野町」であり、神社・寺院の門前町としてお参りに来る人の憩いの場所でもありました。明治30年頃は、大崎村の商業中心地として発展しました。



3 七夕地蔵

旧暦7月7日に初盆の家族は精霊を迎えるため、ここでお参りをする。廃仏毀釈で一度失われたが、地元の林常吉氏によって大正8年7月に再建された。地域の人々が地蔵を管理し、精霊迎への準備・運営を行っている。



2 内田武右衛門の墓

寛政8年（1796年）と寛政12年（1800年）に起こった飢饉で、食料が乏しく困っている人のために、自分の米を配給し、薩摩藩から表彰された人物の墓。



1 補陀山月笑寺跡
不動明王像
5世禅勇健剛和尚の墓と盆近花

心慶寺の隠居寺で心慶寺2代目住職の鷹岳宗俊和尚が建てた。江戸時代中期頃5代目住職の禅勇健剛和尚は、寺の門前に「七夕地蔵」を据え、お盆の準備のため市に来る人々に、ここでお盆に現世へ戻ってくる精霊（先祖霊）を迎えるように呼びかけた。これが「精霊迎え」の始まりとされている。明治時代に廃仏毀釈によって寺は失われてしまったが、研修センターグラウンドに隣接する墓地には禅勇健剛和尚の墓が残っている。お盆の頃に花を咲かせる「むくげ」のことを「盆近花」と呼ぶのも、この地が発祥と言われている。



1470年頃に大崎城主肝付兼光によって建立された。それから間もなく領地替えで肝付家が溝辺に移ったため、寺は一旦は没落。約100年後の江戸時代に亀庵抱和尚が再興したものと推測されている。以後大崎郷の菩提所となる。

7 大崎山心慶寺跡

霧島市福山町の大安寺（禅宗曹洞宗）の末寺である。現在は共同墓地となっているが、墓地敷地西側奥に初代 亀庵抱、4代目 通屋吞達、7代目 鳳山大瑞の墓がある。また、大崎郷士の藤井源六が心慶寺に出家し、のちに江戸泉岳寺十八代目の住職となる。心慶寺には、この住職（源運和尚）の見立墓が残っているとされるが現在は不明である。



5 西南の役官軍本営跡

明治10年（1877年）7月に三文字地区で始まった前哨戦で敗れた薩軍がこの本営を捨て菱田方面へと退却。その後には官軍がこの本営を占拠した。現在は、宅地となっている。



4 都萬神社参道

現在は国道によって寸断されているが、都萬神社鳥居から国道を挟んで見える直線道路は、かつての参道跡である。

今も軽石組の石垣が残る。石垣を軽石で組むのは大崎郷の特徴である。



都萬神社本殿北側壁



6 石敢当

この地域では「せっかんとう」と呼ぶ。魔物の集まりやすい三叉路や曲り道などの突き当りなどに建て、災いを防ぐという。中国から琉球を経て伝わったものである。



都萬神社神舞奉納



8 都萬神社

祭神はコノハナサクヤヒメノミコとその第三の皇子のトコシロヌシノミコト（ホオリノミコト）。創建は不詳。「妻万神社」は古代日向国にあった5つの郡（臼杵郡・児湯郡・那珂郡・宮崎郡・諸県郡）ごとに建立されたもので、この都萬神社は諸県郡に置かれた「妻万神社」である。もともとは救仁郷（志布志市有明町原田）にあったが、天文9年（1540年）に焼失し、この地に遷宮した。肝付氏や島津氏によって大切に守られてきた神社で、地元有力者によって奉納された銅鏡が多く所蔵されている。『籬菊双雀文様鏡』は国の指定を受けている。

明治44年（1911年）に社殿が台風で倒壊。宮大工の伊集院久長によって大正5年（1916年）に建て直された。拜殿・本殿・末社（稲荷神社・伊勢宮・五林大明神・山王神社）は文化庁によって登録有形文化財建造物に登録されている。本殿の軒に施されている十二支のレリーフは特徴的である。また、70年以上途絶えていた神舞（神楽）が地元商工会青年部を中心に、平成22年に復活した。

都萬神社境内の西部分には西南戦争、日清・日露戦争、太平洋戦争に従軍し、亡くなった人々の慰霊塔が建てられている。

9 篠田政龍（1829~1893）、明治の国会議員

明治22年2月11日「大日本帝国憲法」が公布され、明治25年2月、第2回衆議院議員選挙で大崎村の篠田政龍氏は民党から立候補、当選、国会議員となった。政情不安定な明治維新から中期にかけて、郷土大崎の民政の基礎固めに尽力した功績が高く評価されたとある。



都萬神社所蔵の主な文化財（※現在大崎町中央公民館で保管）

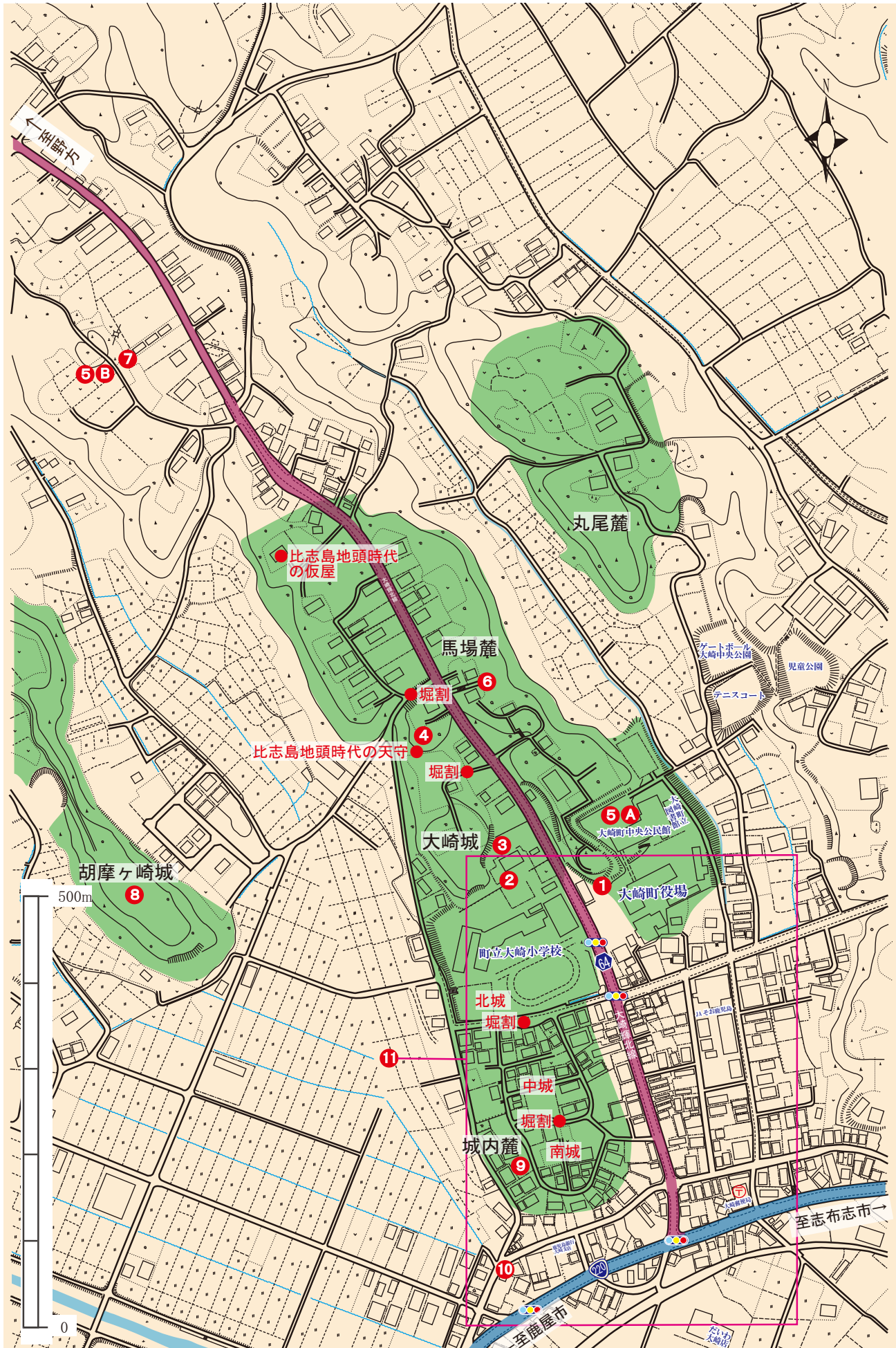


町指定文化財 神楽面

↑ 国指定文化財 籬菊双雀文様鏡

↓ 町指定文化財 海獣葡萄鏡

天正5年（1577年）島津氏の武将 比志島美濃守国守が初代地頭となり、馬場集落・城内集落にあった高台に新たに「大崎城」を築造しました。慶長5年（1600年）の大崎郷創設以降、馬場は行政の中心地となり、馬場集落・城内集落・丸尾集落・仮宿下集落あたりまでは郷土の居住地である「麓」に属しました。



近世以降の行政の中心となった地域（馬場・城内）

牟田地を埋め立てて発展した商業地（三文字地区）



4 大崎城跡

天正2年(1574年),肝付氏が島津氏に降伏した後,天正5年(1577年)島津氏の武将比志島美濃守国守が,初代地頭となり,この地に新たに大崎城を築造した。
現代の宅地造成によって城の大部分は失われている。



7 山下家の六面地蔵

馬場大園墓地内にある。宝暦6年(1756年)に建立された。六地蔵の背面には,産後に22才で亡くなった山下常政の娘を悼む内容が刻まれている。昭和63年町指定。

明治24年9月に県道建設に伴い,潮入川に架けられた小橋の欄干の一部。昭和初期の大規模な持留川改修工事で潮入川の流路は持留川に流れるようになり,昭和20年代以降の道路舗装工事で橋もなくなった。

3 大崎地頭迫水伊予介久光の碑



大崎郷創設時の地頭であったと言われている迫水伊予介久光の碑。文政10年(1827年)に久光の子孫である迫水久徳が建立したと記されている。

文明12年(1480年)に紀氏実政が大願主となって創建。大崎郷創建後は,麓の武家によってこの場所に勧請し,氏神として守られてきた。



6 八幡神社

2 地頭仮屋跡

慶長5年(1600年)に馬場・城内を麓とする大崎郷が創設。現在の大崎小学校敷地北側に地頭仮屋があったと推定されている。

5 A 如意山宝捧寺多聞院跡
B 多聞院跡の六面地蔵(町指定)



慶長初め(1600年頃)に鹿児島大乗院から来た権大僧都 頼恵が開山したと伝えられる。大乗院の末寺で真言宗。大崎郷の祈願所であった。敷地は大崎町中央公民館周辺にあったとされるが,消失している。
敷地内にあった六面地蔵の1基は9代目権大僧都 伝諭の墓で,もう1基は寛文7年(1667年)に権大僧都 朝弘によって追善供養のため建てられたと考えられている。2基の六面地蔵は昭和63年に町指定され,減災事業に伴い現在は大崎町営馬場墓地に移設されている。

8 胡摩ヶ崎城跡

築造は鎌倉時代初期と想定される。建武3年(1336年)に後醍醐天皇の臣下である千種忠顕の雑掌がここに拠ったという記録がある。
また正平3~12年(1348~1357年)には南朝方の楡井頼仲・頼重兄弟の城となっている。頼重は北朝方の禰寝氏に攻められ,ここで戦死したと伝えられる。

9 西南戦争激戦地

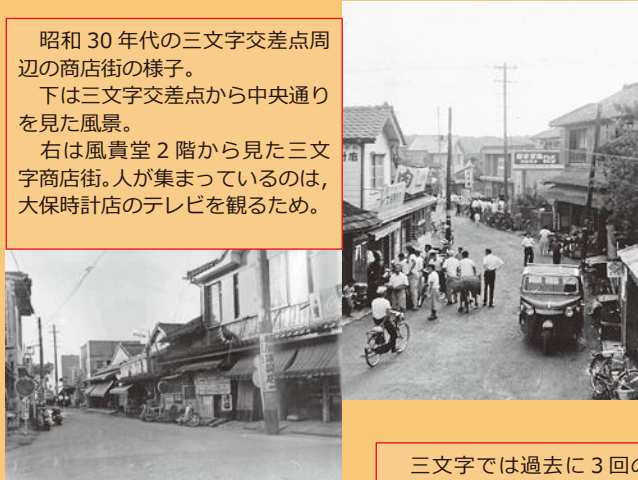
西郷軍に属する戸山賛一率いる小隊と串良街道から進入してきた官軍の偵察隊との刀戦をきっかけに始まった前哨戦。
永吉から仮宿に進軍してきた官軍が加わったため,西郷軍は敗走した。

10 潮入川橋梁跡



大崎町役場旧庁舎の写真。
昭和11年4月に竣工し,昭和52年4月に現在の庁舎が落成するまでは,このような木造の建物であった。

昭和30年代の三文字交差点周辺の商店街の様子。
下は三文字交差点から中央通りを見た風景。
右は風貴堂2階から見た三文字商店街。人が集まっているのは,大保時計店のテレビを観るため。



三文字では過去に3回の大火災が発生した。大正15年3月は旧県道沿い54戸が焼失,昭和20年8月に空襲により中央通りが焼失,昭和35年7月にも中央通り周辺24戸が焼失した。
写真は昭和35年の火災後の様子。遠くに見える建物は大崎小学校旧校舎。



明治36年の大崎百引牛根線が開通した時,宮地善五郎氏が三文字交差点の牟田地(泥湿地)を埋め立ててそば屋を開業しました。

明治40年頃は,そば屋と郵便局,文房具屋の3軒だけでしたが,大正4年の松岡食料品雑貨店の開業を皮切りに,移住してきた人々が広大な牟田地を埋め立てて,大崎町の中心商業地帯を形成しました。これによって昭和時代には商業の中心が上町地区から三文字地区へと移っていきます。



中央通り周辺の空中写真。昭和35年の中央通り大火災前のものである。現在の大崎小学校敷地内に山があったことが,山の影で分かる。現在の役場庁舎や中央公民館のあるところは,当時台地であった。

昭和30年代前半頃の三文字商店街と昭和グラフィティ



北城から見下ろす大崎町役場の様子。



大崎小学校講堂



昭和34年5月に開設。



城山から見下ろす三文字の街

昭和40年代までは、城内集落には城山という山があって、2つの堀割によって、「北城」「中城」「南城」3つに分かれていた。

三文字にあった映画館。当時映画は最高の大衆娯楽であった。



昭和41年集中豪雨

昭和41年7月の集中豪雨で農業共同組合裏を流れる未粗河に台地の畑の雨水が流れ込み、三文字一帯が浸水した。



三文字の鉄道工事

昭和10年の申良～大崎～志布志間の古江線開通で最も難工事であったのが、泥湿地である三文字地区であった。

江戸時代に救仁郷朝次が地頭仮屋から永吉台地に渡る街道建設を行った際、大量の木を浮かせて基礎を造ったという工法を生かして、三文字地区の鉄道建設を実現させた。



国道220号線建設当時の三文字

昭和30年代後半～昭和40年初頃の三文字の様子。手前の建設中の道路は国道220号線。この写真は、国道建設工事にあわせて移設された消防詰所（元中央分団消防詰所）にあった櫓から撮影されたもの。

大崎町には、北部は溪谷、中部から南部にかけてはシラス台地、海岸部には広大な砂丘地帯といったように、様々な様相の自然が存在します。そして豊かな自然環境は古くからこの地に住む人々へ繁栄をもたらしてきました。町内に多く存在する重要遺跡がそれを物語っています。

中持留・岡別府地域には豊かな水辺環境が広がっている地域の1つで、多種多様な動植物も確認されています。気軽に自然を散策できる地域です。



大隅グリーンロード建設に伴い、平成13～15年に発掘調査を行った。

古墳時代中期(約1500年前)の地下式横穴墓群や弥生時代中期(約2000年前)の集落跡、縄文時代早期(約8500年前)の蒸焼き調理施設跡が発見された。

1 下堀遺跡



←弥生時代中期の2基の大型住居跡。住居はいずれも直径7～9mの円形で、そのうち3分の1が調査された。

2 愛宕神社

岡別府集落の守護神として火ぶせと五穀豊穡、家内安全を祈念して祀られている。

湧水量が多く広い池である。ホタルも多い。池の近くに水神が祀られている。

3 中園之下之池



4 麦田下遺跡



平成19年に水田の基盤整備中に発見された遺跡。弥生時代中期～後期(約1800年前)の土器が廃棄されていた場所で、四国西南部の形式の土器が確認されている。

5 園之池 クレソンの群生があり、湧水量は多い。ホタルの池として有名。

6 高久田之池 コケや藻が多く繁り、鳥のさえずりが多く聞こえる。

7 立山之池 シダ類が多く、稚魚が群がっている。

8 五反田之池 ホテイアオイの群生がある。

14 轟の地層

12 杉谷寺の仏像



11 持留神社

かつて持留神社北西にあった杉谷寺にあったと考えられる仏像。

杉谷寺は、寛文4年心慶寺四世通屋和尚により、持留村獅子吼山が心慶寺の末寺として開山された。

大崎郷の二の宮で、創建時期は不明であるが、大永6年(1526年)再興の棟札が残っている。また、棟札には大旦那藤原忠勝の名があり、忠勝は志布志城主新納忠勝を指す。そのため、この頃の持留は新納氏の支配下に置かれていたことがわかる。

祭神は切目王子。



9 高久田A遺跡

古墳時代初頭の住居跡

平成21年に行われた農道整備に伴う発掘調査で古墳時代初頭頃(約1700年前)の集落跡が存在することが判明した。

10 田之神



昭和3年に排水工事記念に大久保貞三氏によって奉寄進されたことが記されている。



持留川上流には2箇所所の滝が存在する。一里塚からさらに県道を北へ約300m登ると上流側の滝を県道から観察することができる。また、滝の斜面には、シラス以外の地層を観察することができる。

ゲンジボタル



岡別府地区には、様々な生物が生息しており、その代表として「ゲンジボタル」がみられる。また、魚を捕食する鳥「ミサゴ」を観察することができる。

島津氏は豊臣氏と深い親交があり、徳川時代になっても藩内の殖産振興のため大阪とは深い交わりがありました。摂津の国の郡奉行であった出原次左衛門は徳川幕府に不満を持ち、大阪の薩摩問屋の藩士達を頼りに薩摩藩内への移住を計画します。

第3代薩摩藩主 島津光久に移住許可を得た出原次左衛門は、元禄元年(1688年)～元禄7年(1694年)の間、4回にわたって摂津・河内・和泉の人々計128名を荒佐野へ移住させました。

当時原野であった荒佐野の地を開拓した人々の精神は、今もなお地域の歴史とともに住民の生活に息づいています。



5 照日神社

元禄2年(1689年)に荒佐野移住者を統率していた大奉行出原次左衛門が伊勢神宮から神霊を勧請して、山頂に「伊勢神社」を創建したのが始まり。明治8年に現在の志布志市有明町平野にあった野方村社「照日神社」と合祀した。祭神は天照皇大神・八幡大明神・春日大明神・住吉大明神・熊野大明神。



6 火の神

左は寛政3年(1791年)に建立されたもの。



2 種馬一的号の墓碑

明治17年に借り受けた優秀種馬で7年もの間に多数の良馬を生産した。宅地内にある。



1 六面地蔵

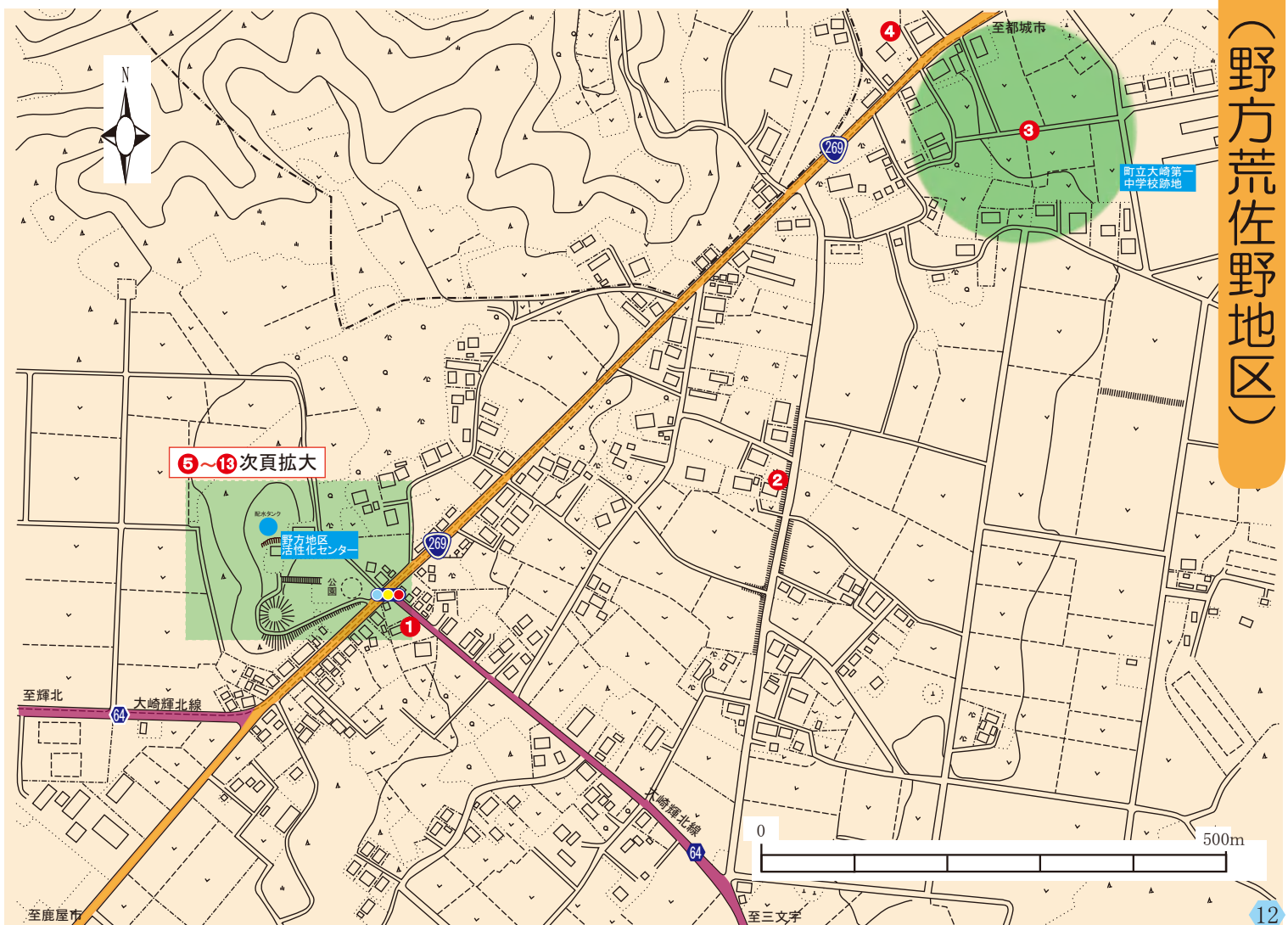
天保6年(1835年)2月に建てられた。子孫繁栄の願いが込められている。

4 荒佐野小学校跡
明治7年2月に服部常右衛門氏の空き地を借り、草葺の家を一軒建てて学校が創立した。明治9年の卒業証書から、実際は「中邑小学校」が正しい校名ではなかったかと推測されている。

明治10年6月、恒吉(曾於市大隅町)の西郷軍本営から振武隊約2,000人が進撃を開始した際、これを官軍が迎え撃って激戦となった場所。



3 西南戦争激戦地跡





10 水神

荒佐野各地にあった水神が集められたもの



9 糴神社

昭和40年に西谷集落から現在の位置に移した。元禄2年(1689年)に摂津国気川村に鎮座されていたものを勧請したと言われている。祭神はミズハノメノミコト。

大正15年に荒佐野移住開墾に成功した祖先の偉業を伝えるため、建てられたもの。移住のいきさつが記されている。



8 創住記念碑



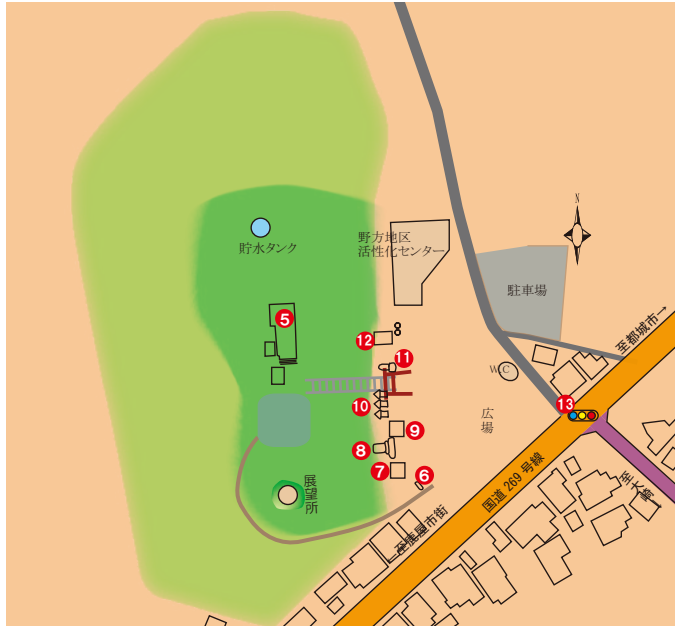
7 稲荷神社

大正4年に創立。現在展望台の立地する丘にあったが、昭和35年に貯水タンク建設に伴い、現在の場所に移る。五穀豊穡の神。



12 観音堂

享保18年(1733年)に琉球王から島津氏に献上された観音像が、丸に十の字の幕とともに荒佐野に贈られた。後の寛保2年(1742年)に観音寺が開山する。現在の観音堂は廃仏毀釈後の明治21年(1888年)の造立された。



小さな石に妙法蓮華經の文字を一字ずつ墨書したものを集めて、地中に埋め、供養塔を建てたもの。天保7年(1836年)の建立。



11 一字一石供養塔



道路拡張で行方不明になっていたものを、偶然下水溝の架け石に使われているのを発見し、現在の場所に据えられた。

13 一里塚



14 浄円寺跡

心慶寺三世意遷祖養大和尚が開山した曹洞宗を宗派とする寺。廃仏毀釈によって建物等が失われ、お墓のみが残る。

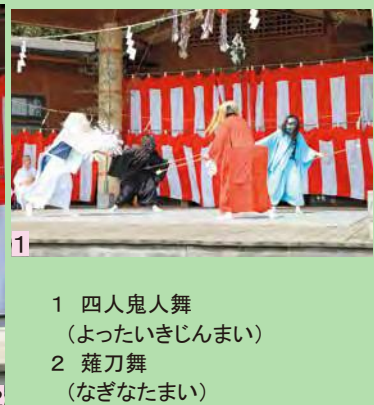


15 戦闘機墜落現場跡

太平洋戦争時、昭和20年5月頃、笠之原飛行場を離陸した戦闘機が、野方南中組上空で火を噴きながら墜落。搭乗員2名は落下傘で脱出し、うち1名は釜ヶ宇都に降下し逃走。残り1名は、松ヶ鼻自治公民館の裏山に降下したものの、すでに焼け死んでいたという。

13

明治26年(1893年)正月、習得した都萬神社の神舞を初めて照日神社に奉納したのが始まりである。現在も神舞保存会によって継承されており、毎年3月第2日曜日の照日神社の春祭り(奉納される。この神舞は「岩戸隠れ」を劇化したものである。実際は19演目の舞があつたが、現在継承されているのは8演目である。平成23年に町の無形文化財に指定された。



- 1 四人鬼人舞 (よったいきじんまい)
- 2 薙刀舞 (なぎなたまい)

照日神社の神舞

大崎町指定無形文化財



16 後迫古墳群

後迫古墳群には、2基の円墳が確認できる。